

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：84604

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21320116

研究課題名(和文) 南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究

研究課題名(英文) The Study of Transferring Historical Records in Nara during Modern Times

研究代表者

吉川 聡 (YOSHIKAWA, SATOSHI)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・文化遺産部・室長

研究者番号：60321626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,000,000円、(間接経費) 4,500,000円

研究成果の概要(和文)：東大寺図書館が所蔵する未整理文書のうち、中村純一寄贈文書と、新修東大寺文書聖教第46函～第77函を調査検討し、それぞれについて報告書を公刊した。中村文書は内容的には興福寺の承仕のもとに集積された資料群であり、その中には明治維新期の詳細な日記があったので、その一部を翻刻・公表した。また中村文書以外の新修東大寺文書からは、年預所など複数の寺内組織の近世資料群が、元来の整理形態を保って保存されている様相がうかがえた。また、新出の中世東大寺文書を把握することができた。

研究成果の概要(英文)：The results of this study were collected into two reports. The first one is the report of historical documents donated to Todaiji Temple by Nakamura family, which served a department of Kofukuji Temple at early modern times. We reprinted detailed diaries at the time of the Meiji Restoration in this report. The second one is the report of historical documents owned by Todaiji Temple from the beginning of early modern times, these documents were preserved by some groups in the temple. And we found some medieval documents in them.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：東大寺文書 興福寺承仕 奈良の明治維新 廃仏毀釈

1. 研究開始当初の背景

(1) 南都の古寺社における古文書調査は、奈良文化財研究所の歴史研究室が中心となって継続的に進めている。ただし、明治維新期に寺社をめぐる状況は激変しており、それに伴って、資料群の所在が激しく動いていることは明白な事実である。現在我々が目している資料群とは、元来は、どの寺院のどの組織のもとに集積された資料群なのか。この点を解明することは、資料論を構築するために必要不可欠のはずである。だが、近代には史料を内容別に整理分類する方法が主流だったこともあり、伝来過程が不明確になっている資料が多く存在する。

(2) そのために、2006年度～2008年度には科学研究費補助金「南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究」(課題番号18320101)を用い、調査研究を実施した(以下、前回科研と称する。)。その際には、東大寺図書館が所蔵するが、興福寺関係文書と思われる、中村純一寄贈文書を主な対象として、基礎的な調査をおこない、その概要の把握にとめた。

(3) しかし、上記期間中には到底終了しないことが判明したため、上記科研の最終年度前年度応募をおこない、研究を継続することとなった。それが、2009年度～2013年度に実施した本研究課題、「南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究」(課題番号21320116)である(以下、今回科研と称する)。

2. 研究の目的

(1) 本研究が目指す全体的な構想は、南都の古寺社が所蔵する歴史資料について、それぞれの資料群の伝来過程を明らかにし、資料群の性格を究明する点にある。本研究課題ではその一階梯として、近代以後に、資料群の保管場所・主体等がいかに変化したか、すなわちその動態を跡づけるようとした。

(2) そのためにはまず、本来伝来した場所から流出した状態で、現在保管されている資料群の性格を明らかにする必要がある。

(3) さらに、同じ寺院内に保存されている資料群であっても、資料群を管理した主体が変化している場合が多い。特に明治維新期の変化が大きく、そのために、元来の保管主体が不明確になっていることが多い。そのような場合、現在残されている資料により、前近代における保管主体を明確にする必要がある。

3. 研究の方法

(1) その研究の素材として、東大寺図書館に所在する、新修東大寺文書聖教を選んだ。新修東大寺文書聖教は、従来のいわゆる東大寺文書を整理する過程で、その範疇に入らな

かった、雑多な文書・聖教群である。しかし逆にそのために、近代の内容別の分類整理がなされておらず、比較的、元来の収蔵状況の面影を残した函が多いと推測された。

(2) その中でも、中村純一寄贈文書は、近代に外部から持ち込まれたことが明らかな資料群である。そこで前回科研でまず、中村純一寄贈文書の基礎的な調査を実施した。

(3) 今回科研では、前回科研をふまえ、中村純一寄贈文書について、重要資料の翻刻を進め、より詳細な検討をおこなった。また一方で、それ以外の新修東大寺文書聖教について、一点ごとにラベルを貼り、書誌事項を記録して目録作りを進め、基礎的な調査研究を進めた。

4. 研究成果

(1) 中村純一寄贈文書については、東大寺図書館の所蔵ではあるが、内容は興福寺の承仕のもとに集積された文書群であることが明確となった。その成果をまとめた報告書として、『<東大寺図書館所蔵>中村純一寄贈文書調査報告書』(編集・発行 吉川聡、2014年3月)を公刊した。報告書は、第1部 論考編・第2部 史料編・第3部 目録編の3部構成とした。第1部 論考編では、中村純一寄贈文書の内実と、そこから判明する基礎的事実について考察した。第2部 史料編では、中村純一寄贈文書の中に見いだした、明治維新期の日記を翻刻・掲載した。具体的には、文久3年の天誅組の変の際の日記・慶応4年(明治元年)日記の全文と、安政7年～明治6年の日記の要点のみを記した見出しを掲載した。また第3部 目録編では、中村純一寄贈文書全点の目録を掲載した。

中村純一寄贈文書について明確となったことは、下記の点などがある。

中村家は室町時代の天文年間以来、興福寺の承仕をつとめた家柄であり、中村純一寄贈文書は、その分家に伝わった文書である。興福寺の承仕は、中世以来の家柄が世襲していたこと、同時に、断絶する家もあり、承仕確保のために分家や、養子相続などもおこなわれたことが判明する。

中村純一寄贈文書は、承仕の職務に関わる、寺領経営や寺内修繕等の関係の文書が主体である。年代は大半が江戸時代後期である。近世の最末期に至るまで、承仕が興福寺の公物方の寺領を経営し、境内整備を担当するなど、実務の中枢を担っていたことが判明する。

江戸時代後期から明治初年にかけて、中村家の人々が記した詳細な日記が存在している。記事も詳細で、特に明治維新期の日記は、混乱期で、他の史料が少ない時期だけに、南都における神仏分離・廃仏毀釈の具体相を物語る資料として貴重である。

(2) 以外の新修東大寺文書聖教については、

第46函～第77函の基礎的な調査をおこない、その概要・元来の保管主体がある程度判明した。その成果を記した報告書として、『東大寺図書館所蔵新修東大寺文書聖教調査報告書第46函～第77函』（編集・発行 吉川聡、2014年3月）を公刊した。報告書は、第1部 論考編・第2部 目録編の2部構成とした。第1部 論考編では、新修東大寺文書聖教第46函～第77函の概要と、その資料等から判明する新知見等について紹介・考察した。第2部 目録編では、第46函～第77函の一点ごとの目録を掲載した。

新修東大寺文書聖教の第46函～第77函を中心とする調査研究からは、下記の点などが明確になった。

未紹介の中世東大寺関係文書を発見し、その一部を詳しく検討した。

近世東大寺の僧侶・法会の実態の一端を明らかにできた。

現在東大寺図書館に存在している文書が、元来、東大寺のどの組織で保管されていたものなのかが、ある程度明らかとなった。具体的には、文書・聖教函は、文書が入っている函と、経典・聖教が入っている函は、かなり明確に分かれている印象を受ける。文書に関しては、大部分が近世文書である。それら近世文書は、当時の袋で一包されるなど、近世以来の保管形態をかなり保持した状態で、現在に至っているものが多い。よって多くの場合、元来の保管主体が推測できる。それらの元来の保管場所は、年預所が最も多く、他には西国沙汰所・薬師院・戒壇院なども存在する。一方、聖教は、旧保管場所としてまとまりがあまり分からないものも多く、近代の整理の過程で、傷みの激しいものなどを、新修文書聖教に別置したような印象を受ける。

(3) 今回は、東大寺図書館の所蔵資料を主たる素材として、調査検討することになった。それも、一部を調査したのみなので、全貌をあきらかにするには、さらなる調査が必要である。それでも、下記の点が明確になったと考えている。

近代、東大寺の各所にあった資料が、東大寺図書館に集積され、新たに分類された。その際、いままで未整理の状態におかれていた新修東大寺文書聖教とは、近代の分類の際にとり残された資料群である。文書については、前近代の整理形態をかなり残していると考えられ、前近代の保管主体もかなり明瞭に分かる。年預所が最も多いが、他の寺内機関のものも存在する。

一方、中村純一寄贈文書とは、東大寺とは全く関係ない大量の資料群が、近代に流入している事例である。これは興福寺の承仕の家に集積された、その職務に関係する資料群である。興福寺との関係が消滅した後も、資料群をその家で保管していた事例である。

そのような保管主体の変化をもたらした

根本原因は、もちろん、明治維新期の神仏分離・廃仏毀釈をはじめとする一連の動向にある。その時期の南都寺院の動向については、不明な点も多い。しかし今回、中村純一寄贈文書中に詳細な記録を見だし、翻刻・紹介した。それらの資料をさらに分析することにより、今後、不明な点が明確になることが期待される。

(4) ただし、今回は東大寺図書館所蔵の新修東大寺文書聖教について、その一部をケーススタディーとして調査検討をしたに止まっている。今後もこのような観点を維持して、調査研究を続ける必要があるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6件)

吉川 聡「古寺社の古文書が語りだす歴史 南都の古文書調査から」『遺跡をさぐり、しらべ、いかす』査読無し、2013年、37-54頁

吉川 聡、鈴木 智大、海野 聡、赤田 昌倫、児島 大輔「内山永久寺の扁額」『奈良文化財研究所紀要』査読無し、2013年、12-15頁

遠藤 基郎「中世東大寺文書を俯瞰する」『三田中世史研究』査読無し、第18巻、2011年、1-38頁

吉川 聡「唐招提寺境内の変遷 奈良平安時代を中心に」『戒律文化』査読有り、第8号、2011年、15-26頁

吉川 聡「興福寺の論義草奥書にみえる歴史 戦国時代南都の飢饉・一揆・武將」『奈良文化財研究所紀要』査読無し、2009年、16-17頁

吉川 聡「奈良加茂道の遡及的検討 近世伊賀道から古代東海道・恭仁京に及ぶ」『律令国家史論集』査読無し、2010年、267-289頁

〔学会発表〕(計 3件)

吉川 聡「日本における古文書の調査と文化財指定」インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的記録文書等の保存修復のための拠点交流事業」主催のジャカルタでのシンポジウム、2013年11月21日、インドネシア・ジャカルタ・イスマイル・マルズキ文化センター(Pusat Kesenian Jakarta Taman Ismail Marzuki)

吉川 聡「古寺社の古文書が語りだす歴史 南都の古文書調査から」奈良文化

財研究所創立 60 周年記念特別講演会、
2012 年 10 月 6 日、東京・一橋大学一橋
講堂

吉川 聡「近世奈良・加茂道の遡及的検討
古代東海道・恭仁京に及ぶ」読史会大
会、2009 年 11 月 3 日、京都大学

〔図書〕(計 3 件)

吉川 聡編集・発行、『<東大寺図書館所
蔵>新修東大寺文書聖教調査報告書 第
46 函～第 77 函』科学研究費補助金研究
成果報告書 第 2 冊、2014 年、320 頁
(所収論文)

吉川 聡「新修東大寺文書聖教第四七函
～七七函の調査と概要」、5-9 頁

遠藤 基郎「新修東大寺文書の中世後
期周防関係文書」、10-18 頁

小原 嘉記「世親講供料引付について」
19-42 頁

山本 倫弘「南北朝期東大寺の強訴と仁
和寺 康永四年九月日仁和寺牒写」、
43-50 頁

坂東 俊彦「近世の東大寺真言院の一側
面 性善和尚関係史料の紹介」、
51-54 頁

吉川 聡「防州国庁寺境内建物図」、55 頁

吉永 隆記「防府天満宮棟札写につい
て」、56-57 頁

谷本 啓「光覚知識経の包紙」、58 頁

富田 正弘「近世東大寺法会に関する試
論」、59-94 頁

吉川 聡編集・発行、『<東大寺図書館所
蔵>中村純一寄贈文書調査報告書』科学研
究費補助金研究成果報告書 第 1 冊、2014
年、468 頁
(所収論文)

吉川 聡「中村純一寄贈文書の調査と概
要」、5-11 頁

海原 靖子「中村家の人びと 中村純一
寄贈文書にみる」、12-23 頁

宇佐美 倫太郎「天文二年以来承仕中系
図并臆次書について」、24-39 頁

水谷 友紀「近世興福寺領公物方の村と
唐院・新坊」、40-45 頁

黒岩 康博「中村栄純(宗円)の奈良府出
仕」、46-48 頁

高田 祐一「近世興福寺における境内保
守整備の一樣相」、49-53 頁

山田 淳平「近世南都楽人と春日社・興
福寺」、54-58 頁

吉川 聡「興福寺寺中寺外地図面」、
59-60 頁

馬場 基「文久二年七箇夜御神楽御執行
之図」、61-62 頁

番 光・清水 重敦・海野 聡・大林
潤・鈴木 智大・吉川 聡共著、奈良文
化財研究所発行、『木奥家所蔵大工道具調

査報告書』2012 年、
吉川 聡執筆分は 45-48 頁、「第 5 章
木奥家所蔵春日座大工関係史料
1・2」

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉川 聡 (YOSHIKAWA SATOSHI)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・文化遺産部・室長
研究者番号：60321626

(2) 研究分担者

渡辺 晃宏 (WATANABE AKIHIRO)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・都城発掘調査部・室長
研究者番号：30212319

(3) 連携研究者

綾村 宏 (AYAMURA HIROSHI)

京都女子大学・文学部・教授
研究者番号：20000507

永村 眞 (NAGAMURA MAKOTO)

日本女子大学・文学部・教授
研究者番号：40107470

遠藤 基郎 (ENDO MOTOO)

東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：40251475

山本 崇 (YAMAMOTO TAKASHI)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・都城発掘調査部・主任研究員
研究者番号：00359449

馬場 基 (BABA HAJIME)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・都城発掘調査部・主任研究員
研究者番号：70332195

光谷 拓実 (MITSUTANI TAKUMI) (2010 年度
まで)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・埋蔵文化財センター・客員研究員
研究者番号：90099961

島田 敏男 (SHIMADA TOSHIO) (2010 年度ま
で)
文化庁・文化財部・参事官付・主任文化財
調査官
研究者番号：60187432

研究協力者
坂東 俊彦 (BANDO TOSHIHIKO)
東大寺史研究所・研究員

浅野 啓介 (ASANO KEISUKE)
文化庁・文化財部・記念物課・文化財調査
官

石田 俊 (ISHIDA SHUN)
山口大学・人文学部・専任講師

宇佐美 倫太郎 (USAMI RINTARO)
京都府立大学大学院・文学研究科・博士後
期課程

海原 靖子 (UMIHARA YASUKO)
白鶴美術館・主任学芸員

大田 壮一郎 (OTA SOICHIRO)
奈良大学・文学部・専任講師

葛本 隆将 (KUZUMOTO TAKAMASA)
平群町教育委員会・総務課・学芸員

黒岩 康博 (KUROIWA YASUHIRO)
天理大学・文学部・助教

桑田 訓也 (KUWATA KUNIYA)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・都城発掘調査部・研究員
研究者番号：

古藤 真平 (KOTO SHINPEI)
古代学協会・研究員

小原 嘉記 (KOHARA YOSHIKI)
中京大学・国際教養学部・准教授

坂本 亮太 (SAKAMOTO RYOTA)

和歌山県立博物館・学芸員

島津 良子 (SHIMAZU RYOKO)
奈良女子大学・非常勤講師

高田 祐一 (TAKADA YUICHI)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・研究支援推進部・アソシエイトフ
ェロー

高橋 大樹 (TAKAHASHI HIROKI)
大津市歴史博物館・学芸員

竹貫 友佳子 (TAKENUKI YUKAKO)
京都府立大学大学院・学術研究員

谷本 啓 (TANIMOTO KEI)
奈良大学・非常勤講師

徳永 誓子 (TOKUNAGA SEIKO)
国際日本文化研究センター・機関研究員

富田 正弘 (TOMITA MASAHIRO)
富山大学・名誉教授

中町 美香子 (NAKAMACHI MIKAKO)
京都大学・非常勤講師

長村 祥知 (NAGAMURA YOSHITOMO)
京都府京都文化博物館・学芸員

根ヶ山 泰史 (NEGAYAMA YASUFUMI)
埼玉県教育局・市町村支援部・生涯学習文
化財課

林 晃弘 (HAYASHI AKIHIRO)
東京大学・史料編纂所・助教

藤本 仁文 (FUJIMOTO HITOFUMI)
京都府立大学・文学部・専任講師

水谷 友紀 (MIZUTANI YUKI)
京都造形芸術大学・非常勤講師

山田 淳平 (YAMADA ZYUNPEI)
京都大学大学院・文学研究科・博士後期課
程

山田 徹 (YAMADA TORU)
京都大学大学院・文学研究科・助教

山本 倫弘 (YAMAMOTO MICHIIRO)
京都府立大学大学院・文学研究科・博士後
期課程

横内 裕人 (YOKOUCHI HIROTO)
京都府立大学・文学部・准教授

栗山 雅夫 (KURIYAMA MASAO)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・企画調整部・技術職員

佃 幹雄 (TUKUDA MIKIO)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・所友